



NEWS LETTER

International Institute for Advanced Studies

vol. **72**
July
2010

contents

報告 第 67 回理事会・第 60 回評議員会開催
(6月16日)

報告 2010 年度 第 1 回企画委員会を開催
(5月21日～22日)

紹介 「高等研学術道場プログラム」の公募開始

紹介 高等研研究成果報告書・選書 3 冊を刊行

報告 『能と京劇～日本と中国の演劇～』を開催
(5月22日)

お知らせ 「生活習慣病の面白健康科学」を予定
～元気に生きるための食事と運動～(10月9日)

報告 第 11 回高等研茶会を開催
(6月12日)

事務局だより

お知らせ 訃報 梅棹忠夫顧問がご逝去
(7月3日)

報告 研究活動実績
(4月1日～6月30日)

カレンダー 研究活動予定
(7月1日～9月30日)

カレンダー 高等研就業カレンダー
(8月～10月)



夏空と高等研庭園

報 告



第 67 回理事会・第 60 回評議員会を開催 (6 月 16 日)

6 月 16 日（水）に第 67 回理事会・第 60 回評議員会を開催し、2009 年度（平成 21 年度）事業報告及び収支決算が承認され、理事・監事の選任が行われました。その内容は下記のとおりです。



第 67 回理事会

1. 2009年度事業報告及び収支決算の承認

1) 研究事業

2009 年度の研究事業では、21 件の研究プロジェクト、民間資金による研究 1 件、国際フォーラム 1 件他、京都大学との協定に基づく共同研究、専門的人材育成事業等を実施しました。その他、3 件の成果報告書及び 1 件の高等研選書の刊行し、3 回の公開講演会、地域イベント等を実施しました。

2) 収支決算

収支決算については、当初の事業活動支予算より 2,810 万円の諸経費削減に努め、外部からの資金の導入に努めたものの、下記のとおりとなりました。

総収入合計	10,057 万円
総支出合計	15,772 万円
当期収支差額	▲ 5,715 万円

収支差額については、「研究事業推進基金」を取崩してこれに充当しました。

なお、外部から資金の受け入れは次のとおりです。

①文部科学省科学研究費補助金

「特定奨励費」 2,230万円

②（財）新技術振興渡辺記念会

「科学技術調査研究助成」 42万円

2. 理事・監事及び評議員の選任

前回の理事会・評議員会以降、関係諸団体等の役員交代に伴う理事 1 名、監事 1 名の辞任があり、理事 2 名及び監事 1 名の選任が行われました。

[退任] 理事 茅 陽一
(財)地球環境産業技術研究機構副理事長

監事 岩田 直樹
(社)大阪銀行協会前会長

[新任] 理事 山地 憲治
(財)地球環境産業技術研究機構理事・研究所長

佐藤 茂雄
大阪商工会議所会頭

監事 服部 盛隆
(社)大阪銀行協会会長

退任日は 2010 年 6 月 30 日。就任日は 2010 年 7 月 1 日で任期は 2012 年 3 月 31 日までです。



3. 2010年度評議員のご紹介

2010年4月1日付けにて選任された評議員名簿は下記のとおりです。任期は2010年4月1日～2012年3月31日です。(◎印の方が新任)

石田 明	大日本スクリーン製造(株)会長	◎ 白石 達	(株)大林組社長
犬伏 泰夫	(株)神戸製鋼所相談役	杉原 左右一	関西学院大学長
井上 礼之	ダイキン工業(株)会長	須藤 健一	国立民族学博物館長
猪木 武徳	国際日本文化研究センター所長	清家 篤	(学)慶應義塾塾長
宇野 郁夫	日本生命保険(相)会長	千 玄室	茶道裏千家前家元
江島 義道	京都工芸繊維大学長	竹中 統一	(株)竹中工務店社長
大谷 實	(学)同志社総長	竹葉 剛	京都府立大学長
岡田 登史彦	ムーンバット(株)相談役	田中 成明	(財)国際高等研究所副所長
奥 正之	(株)三井住友銀行頭取	玉越 良介	(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ会長(6月29日付(株)三菱東京UFJ銀行特別顧問に就任)
奥野 武俊	大阪府立大学長	塚本 能交	(株)ワコールホールディングス社長
河井 規子	木津川市長	鳥井 信吾	サントリーホールディングス(株)副社長
川北 稔	(財)国際高等研究所副所長	中村 満義	鹿島建設(株)社長
川口 清史	(学)立命館総長	◎ 西澤 良記	大阪市立大学長
金田 章裕	人間文化研究機構長	野口 誠之	奈良女子大学長
◎ 楠見 晴重	関西大学長	◎ 林 守也	(株)クボタ副会長
小塚 修一郎	住友金属工業(株)副社長	福田 秀樹	神戸大学長
		前川 重信	日本新薬(株)社長
		◎ 松本 正義	住友電気工業(株)社長
		水越 浩士	神戸商工会議所会頭
		村上 仁志	住友信託銀行(株)特別顧問
		山岸 久一	京都府立医科大学長
		横山 進一	住友生命保険(相)会長

(評議員 42名)



報 告



2010 年度 第 1 回企画委員会を開催 (5 月 21 日 ~ 22 日)

2010 年度第 1 回企画委員会が、企画委員、研究代表者、フェロー等 20 名が出席して 5 月 21 日 ~ 22 日に開催されました。

委員会では、尾池和夫所長から 2009 年度の研究事業について概説がありました。

続いて、高等研の今後の研究方針について、所長の基本的考え方が示され、その後、2011 年度継続候補の研究プロジェクトの計画概要及び新規提案プロジェクトの企画案を基に議論が交わされました。

さらに、本年度開始予定の「高等研学術道場プログラム」に係る公募方法など具体的な進め方について議論されました。



紹介



「高等研学術道場プログラム」の公募開始 (7月7日～)

高等研では、研究事業の基本目的を「従来の学問分野や世代を超えた知の交流型蓄積により、未知の学術の領域に新たな学術の芽を探し、次の世代に向けた学術の芽を見つける活動を中断することなく、近未来の人類の発展に対して継続的に学術の芽を育てて供給することにより、我が国の学術研究の発展に貢献する」こととして研究活動を推進しています。

その一環として、2010年度から新たに「高等研学術道場プログラム」を実施することになりました。これは、高等研の研究プロジェクトに若手、主に大学院博士後期課程の学生を公募にて招へいし、対等な立場で参画させることに

よって、次世代の研究者と高度の経験を持つ研究者との世代間交流を促進し、学界間の若手研究者の交流を進め、学術の芽を探し育てる議論の過程に大学院生が参加する経験を持つ機会を創るものです。

このプログラムは、経験豊かな人材の宝庫である本研究所でなければできない事業であり、経験豊かな研究者たちとの学術の論議に参加させることにより、若手研究者の成長を促すというものです。

・以下、学術道場プログラムに記載している尾池所長のメッセージを転載します・・・・・・

----- 高等研学術道場プログラムより抜粋 -----

次世代を担う若手研究者の諸君！

高等研に集まる高度の知の出会いに触れながら、人類の未来に貢献する芽を探して欲しい。

国際高等研究所は経験豊かな人材の宝庫です。その宝庫を活かし、次世代を担う研究者の養成のために、2010年度から新たな試みとして、若手とくに大学院博士後期課程の学生のための、若手研究者招へい事業の「高等研学術道場プログラム」を実施します。

この学術道場は2010年度の国際高等研究所の研究プロジェクト18のうち、研究代表者の賛同のあったプロジェクト毎に2ないし3名の席をあらかじめ確保し、それらのプロジェクトに参加する若手研究者を公募し、応募者の中から選考して参加者を認めるものです。次世代研究者をめざす学生と豊かな経験と高度な実績を持つベテラン研究者との世代及び分野を越えた交流を促進し、学術の芽を探し育てる議論の過程に参加する経験を持つ機会を提供するものです。私は、このような形態は既存の研究機関や

大学などにはできない仕組みだと思っています。近い将来、この「高等研学術道場プログラム」がこれからの日本の学術研究に大きな貢献をできると確信しています。次世代を担う若手研究者の諸君の積極的な参加を待っています。

尾池和夫



学術道場プログラムの公募要項や募集案内のパンフレット等はホームページ <http://www.iias.or.jp/doujou> を用意していますのでご覧下さい。

紹介



高等研研究成果報告書・選書 3 冊を刊行

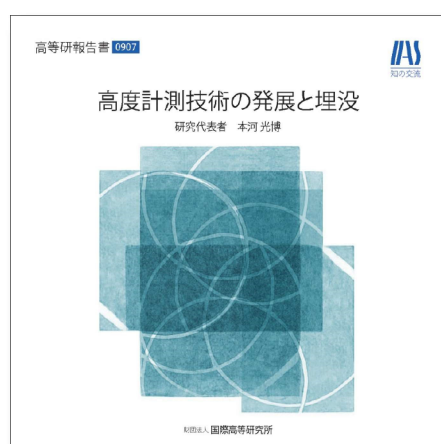
高等研の出版に関するお問い合わせ及び申し込みは、(財)国際高等研究所事務局・学術出版担当へお願いします。

TEL : 0774-73-4000 FAX : 0774-73-4005

E-mail : book@iias.or.jp

<http://www.iias.or.jp/academic/report.html>

■ 研究成果報告書名：高等研報告書907 高度計測技術の発展と埋没



- ・研究代表者：本河 光博
- ・研究年度：2007～2009年度
(但し2009年度は報告書とりまとめ年)
- ・頁数：CD版(頁数/本文268頁) ・価格：3,500円(税込)
- ・ISBNコード：978-4-906671-77-9

(本書「1はじめに」より抜粋)

この報告書は、(財)国際高等研究所で実施された研究プロジェクト「高度計測技術の発展と埋没」の成果をとりまとめた物である。初めにこの研究プロジェクトが行われるに至った経過を簡単に述べておく。本代表者が国際高等研究所でフェローとしていろいろの人と議論をしている過程で、「世界シェア 70% を誇っていた我が国の電子顕微鏡が最近売れなくなってきた！

それは何故か？」という疑問が持ち上がった。この問題を少し検討してみようというのが本研究プロジェクトの直接の動機であった。2005年度から2006年度にかけ、とりあえず金森所長(当時)の研究プロジェクトであった「高度科学技術に伴う広域・学際的諸問題」の作業グループの一つとして、我が国の科学技術の国際的なステータスを調べるべく「高度計測技術の発展と埋没」というタイトルでスタートした。その目的とする内容の骨子は以下のである。

要旨：科学技術基本法の下に、総合科学技術会議の答申をうけて、科学技術研究に対する予算は年々増え、10年前に比べかなり潤沢になったと思われる。これらの多くは競争的研究資金として、産官学の研究者に分配され、この分野の研究が非常に活発になったことは明らかである。しかし、文化の一つとして位置づけられる物理や数学などの基礎研究は別として、技術開発研究に対するアウトプットは多くの成果が必ずしもわが国の産業を育成し発展させるものとはなっていない……。

(本書「1はじめに」より抜粋)

■ 研究成果報告書名：高等研報告書903 19世紀東アジアにおける国際秩序観の比較研究



- ・研究代表者：吉田 忠 ・研究年度：2007～2009年度
(但し2009年度は報告書とりまとめ年)
- ・頁数：書籍版(頁数/本文262頁) ・価格：3,500円(税込)
- ・ISBNコード：ISBN978-4-906671-73-1

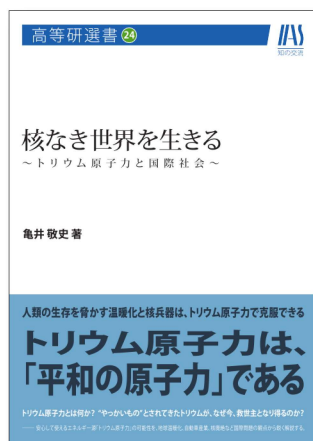
(本書 研究活動概況より抜粋)

本研究「19世紀東アジアにおける国際秩序観の比較研究」は2006年度から2008年度にかけて3年間にわたり、6名のコア研究メンバーを中心に年間4回、計12回の研究会を開催し、

2009年度には報告書作成準備のため2回のフォローアップ研究会をもった。その間、研究会に下記のごとく総計24名の話題提供者から研究発表をいただき、研究の進展上多くの示唆と刺激を頂戴した。ここに記して謝意を表します。また研究例会において、貴重なコメント・助言を頂いた中川久定京都大学名誉教授(当時国際高等研究所副所長)に、この場を借りて深く感謝申し上げます。本研究プロジェクトを立ち上げるにあたって、計画案として、本研究の趣旨・目的を次のように掲げた。

19世紀東アジアにおいては、近代国家の創出が共通の課題であった。しかし、これら日本、中国、朝鮮の東アジア三国は、伝統的には華夷秩序思想の桎梏のもとにあったと言えよう。本研究の主眼は、この華夷秩序観から近代国家的対外観、すなわち(西洋型)国際秩序観への転回の過程とその要因を再検討しようというものである。(以下省略)

■ 高等研選書名：24核なき世界を生きる ～トリウム原子力と国際社会～



- ・著者：亀井 敬史 ・サイズ：B6判
- ・頁数：書籍版(頁数/本文120頁)
- ・価格：1,000円(税込)
- ・ISBNコード：ISBN978-4-906671-69-4 ・Cコード：C0260

(本書「1はじめに」より抜粋)

現在、「生きる」ということが非常に脅かされています。一つは地球温暖化の問題、もう一つは核兵器の問題です。約20年前に冷戦が終わり、かつての米ソ両大国間の核軍拡競争はなくなりましたが、北朝鮮、イランといった国での核兵器開発の懸念など、核兵器の拡散という新たな問題が生じつつあります。「人類の生存を脅かす温暖化と核兵器という課題が、トリウム原子力によって克服できる可能性がある」と、この数年の取り組みを通して見えてきました。トリウム原子力とは何で、それが国際社会においてどのような位置付けにあるのかということを、本書を通して知っていただきたいと思います。

イベント報告

『能と京劇～日本と中国の演劇～』を開催
(5月22日)

今年度第1回目の「高等研公開講演会」(京都銀行協賛)を5月22日(土曜)に開催しました。金文京・京都大学人文科学研究所教授を迎えて『能と京劇～日本と中国の演劇～』をテーマに、日中両国の多様な演劇を映像を使って比べ、共通性と独自性について分かりやすい講演となりました。また、国立国会図書館関西館は講演に合わせ、両国で出版された演劇に関する書籍18点を展示しました。

演劇の歴史は宗教儀礼にあり、世界中に共通している。演者が独りで語ったり、歌ったりするのを基本とした「語り物」に発し、次第に演劇化した。中国や日本では宗教色が多様な形に変化しながら今日までその面影を強く残している。宗教儀礼に淵源を持つため、神と人との交流ないし変身が演劇の主要なテーマになっている。

中国の農村部では、今も宗教演劇として古い形が伝承している。邪気を祓う儀式「追儺(ついな)」に発した「儺戯(なぎ)」と呼ばれるもので、演者は仮面をつけ＝神になり、語りかつ舞う。今日の日本でも、節分の「鬼やらい」がある。中国語で「儺」は邪気を祓うための呪文で「nuo」と発音され、これが日本の「能」の語源との説もある。

儺戯が演劇化して、筋書きを持つ芝居に変化し、仮面に替わって歌舞伎の「隈取(くまどり)」や京劇の「臉譜(れんぷ)」が工夫された。ほかにも、共通点がある。歌舞伎も京劇も長い物語のごく一部(幕、場)を抜き出して上演する。演劇の常識からすると奇異。これは、全体の物

語より「演者が何を舞台で見せるか」を重視し、作家がそれに合うように芝居を作るため、出展の原作品にはない内容も含まれる。写実劇より様式性が強い。

相違点もある。その多くは日本と中国では演劇に対する見方、文化に対する考え方が異なることに起因する。

現在の日本では、能や歌舞伎は日本文化の重要な位置を占めている。一方、儒教の国中国では、もともと演劇は正統な文化の外にあった。芝居の持つ超自然的なもの、架空のもの、虚構性は「良くないもの」とされてきた。とくに、地方に伝承されてきた仮面劇などは、儒教主流の歴史に加えて、共産党政権下で宗教行事に発した伝承芸については、日本と対応が異なった。奥地では外部の人に警戒的で、映像記録もできない状態にある。

日中の演劇についていえば、元の素材は似ていながら、それを見る目、価値観が異なった。それでも、その姿はよく似ていて、相互に何らかの影響、関係があったと考えられる。



講演会の様子



お知らせ



イベント参加者募集

「生活習慣病の面白健康科学」を予定 ～元気に生きるための食事と運動～（10月9日）

10月9日（土）京都銀行協賛による2010年度第2回目の公開講演会を開催致します。講師には、京都大学大学院人間・環境学研究科 森谷敏夫教授をお迎えし、生活習慣病の面白健康科学～元気に生きるための食事と運動～というテーマでご講演いただきます。

「メタボリアン改造計画」（共著）NHK出版、「メタボにならない脳の作り方」扶桑社、「人は必ず太る しかし 必ずやせられる」講談社他多数の著書やNHKのためしてガッテン、生活ホットモーニングなどマスコミでも大活躍の生活習慣病の第一人者の先生です。

現在の先生の関心・研究活動状況は、生活習慣病の温床になる肥満のメカニズムに関する研究に取り組んでおられ、寝たきり患者や

整形外科的に運動が出来ない人々のための骨格筋電気刺激にも精力的に研究を進めていらっしゃいます。

ぜひ多くの皆様のご参加をお待ちしています。詳しくは高等研WEBサイトをご覧ください（<http://www.iias.or.jp>）

■ 開催概要

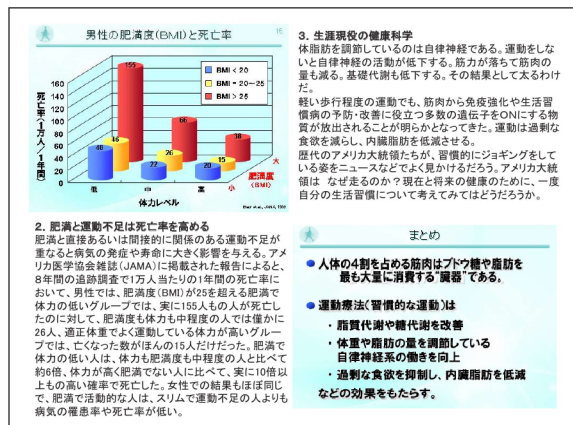
演 題：生活習慣病の面白健康科学
～元気に生きるための食事と運動～
講 師：森谷敏夫氏
京都大学大学院人間・環境学研究科 教授
開催日時：10月9日（土）14：00～16：00
場 所：高等研レクチャーホール
対 象：高校生以上
定 員：150名 参加無料・事前申込不要

【講演要旨】ギリシャ時代のヒポクラテスから継承された治療医学は、病気になって初めて診断・治療をする患者を前提としてきました。21世紀の超高齢化・超運動不足社会に突入し、医学は一大転換期にさしかかっています。それは患者を前提としない医学です。患者になって初めて役に立つ医学ではなく、健康なうちに役立つ予防医学の発展が今後の大きな社会的ニーズになるでしょう。

遺伝的要因と生活習慣（食事、運動、休養）が長期間にわたって不適切だった人の罹りやすい病気が生活習慣病です。「死の四重奏」と呼ばれる肥満症、糖尿病、高脂血症、高血圧症は、自覚症状がないために気づくのが遅れ、手遅れになってしまうことが多いです。最近の運動・医科学の研究により、これら生活習慣病に慢性的な運動不足が大きく関係していることが明らかになりました。今や、「生活習慣病」は「運動不足病」と言っても過言ではありません。

体脂肪を調節しているのは自律神経です。運動をしないと自律神経の活動が低下します。筋力が落ち

て筋肉の量も減り、基礎代謝も低下し、その結果として太るわけです。軽い歩行程度の運動でも、筋肉から免疫強化や生活習慣病の予防・改善に役立つ多数の遺伝子をONにする物質が放出されることが明らかとなりました。運動は過剰な食欲を減らし、内臓脂肪を低減させます。現在と将来の健康のため、これを機会に自分の生活習慣について考えてみましょう。



2010
年度第2回高等研公開講演会

森谷敏夫
京都大学大学院人間・環境学研究科教授



報 告



第11回高等研茶会を開催 (6月12日)

茶道裏千家及び(株)福寿園のご協力を得て、恒例の第11回高等研茶会を開催いたしました。梅雨の晴れ間で、終日お天気に恵まれ、裏千家正教授本間宗壽先生や社中の皆さま方のご協力で、ご参加いただいた多数の方々に、お茶を楽しんでいただくことができました。

お点前の体験コーナーでは、お子さんや外国の方の姿も見られ、また、京都府下・奈良県下の茶道部の生徒さんたちは、今年も元気な顔を見せてくれました。当日、研究所で開催中の研



研究プロジェクト参加の皆さん

究会メンバーにも、多数参加いただき、「ちょっと一服」概ね好評でした。

精華町役場第8代国際交流員 ドウアティ・ジョナサン氏から茶会の体験を寄稿いただきました。

Experiencing a Tea Ceremony

On June 12th I had the chance to partake in a tea ceremony during the yearly event held by the International Institute for Advanced Studies. Before enjoying the tea, we were offered wagashi, a type of Japanese sweets with a seasonal theme. This particular wagashi, a semi-transparent square of jelly, was deliberately chosen to compliment the hot, early summer day. Resembling ice with its frosted finish and transparency, just looking at the wagashi made the summer weather seem slightly cooler. The natural, tranquil atmosphere of the institute's campus made for a relaxing and enjoyable experience.

At the hands-on tea corner, I realized the tea ceremony process is an art form that requires serious study: everything from how to clean the equipment to how to enter the room must be learned to exacting specifications. In contrast to the ceremony where I could relax and enjoy the atmosphere, here I was able to focus on the intricate process of preparing and serving the tea. Thanks to this event I will be able to appreciate the tea ceremony more artistically the next time around.



お点前挑戦中のジョナサン氏

6月初旬、裏千家様のご協力をいただき茶室を修繕しました。

高等研茶室「雅松庵」建立に携われた当時の職人の皆さまにより、外壁の塗り替え、畳、障子の張り替えをしていただきました。

おかげさまで、すっきりと美しく生まれ変わった「雅松庵」で、今年も多くの方々をおもてなしできました。



修繕に携わってくださった方々





事務局だより

隣町に生まれ、中学高校は奈良市内、大学は京都市内、就職し最初に配属されたのは大阪府の臨海工業地帯と、筆者はとりわけ「けいはんな」に馴染みがある。

分野を横断し世代を超えて、学術の芽を育てる議論を行い、あすの日本の学術を支える役割を果たすことを目指している高等研に縁あって身を置くことになり3年余が経ち、今、その研究活動を支援する部門にいる。

研究事業の総括や新年度（今年度）の事業計画の策定などに没頭する、嵐のような旧年度末から新年度期初を無事に経て、今、本号発刊の頃は、きっと京都は梅雨が明け、盆地固有のうだる猛暑に悩まされつつも、祇園祭が終わり、来月には五山送り火など、夏本番の中、我々は仕込みの時期に入っている。

日本酒の仕込みは、厳冬下、杜氏が主役として行うもので極めて重要で大変厳しい作業と聞くと、この夏の仕込みもまた我々には重要なものである。

秋になり来年度の研究計画の策定や、外部資金の獲得に向けた活動が佳境に入る前の今こそ、じっくり腰を据えて考える大切な仕込みなのである。

主役はもちろん正副所長であり、関係する研究者らである。我々事務局はそれをサポートする部隊であるが、我々のこの真夏の汗が、次の研究活動の下支えとなり、やがて出づべき「学術の芽」が醸成され、その成果にほくそ笑む日がきっと近いと信じて、我々は夏から秋へと業務を進めていく。

今日も研究会が始まる

・・・学術の芽を見つけるために

会場の準備にかかるか

・・・議論のバトルが展開される舞台を（た）



今年も見事なハスが咲きました。

お知らせ



訃報 梅棹忠夫顧問がご逝去（7月3日）

国際高等研究所創設以来、本財団の顧問をお務めいただきました国立民俗学博物館顧問・梅棹忠夫先生が7月3日にご逝去されました。心からご冥福をお祈りいたします。

報 告



研究活動実績（4月1日～6月30日）

研究プロジェクト	開催日	研究代表者	参加者数
フェロー研究会「レーザープラズマ物理とフォトンクス」	4月 3日(土)	三 間 紈 興	4
ナノ物質量子相の科学	4月23日(金)～24日(土)	金 森 順次郎	61
研究成果の取りまとめ会合「エネルギー科学における多階層連結コンピューティング」	5月 6日(木)～ 7日(金)	三 間 紈 興	12
ジオパークの東アジアネットワークの構築に向けて	5月19日(水)	尾 池 和 夫	8
文化財保全技術	5月20日(木)	志 水 隆 一	7
2010年度第1回企画委員会	5月21日(金)～22日(土)	尾 池 和 夫	20
21世紀における文化としての設計科学と生産科学	5月28日(金)～29日(土)	岩 田 一 明	8
メタマテリアルの開発と応用	6月 4日(金)～ 5日(土)	石 原 照 也	47
天地人―三才の世界：宇宙・地球と人間の関わり合いの新しいリテラシーの創造	6月 8日(火)～ 9日(水)	尾 池 和 夫	17
諸科学の共通言語としての数学の発掘と数理科学への展開	6月11日(金)～12日(土)	高 橋 陽一郎	6
宇宙における生命の総合的考察とその研究戦略	6月11日(金)～13日(日)	海 部 宣 男	30
研究成果の取りまとめ会合「すきまの組織化」	6月11日(金)～13日(日)	鳥 海 光 弘	6
法と倫理のコラボレーション―活あまる社会への規範形成―	6月18日(金)～19日(土)	服 部 高 宏	19
単分子エレクトロニクス現状認識と近未来実現へ向けての中核体制構築	6月25日(金)～26日(土)	夢 田 博 一	14
ジェンダーからみた家族の将来	6月26日(土)	姫 岡 とし子	9

カレンダー



研究活動予定（7月1日～9月30日）

開催予定日	研究プロジェクト	研究代表者
7月 2日(金)～ 3日(土)	受容から創造性へー近現代日本文学におけるスタンダードの場合	ジュリーブロック
7月 2日(金)～ 3日(土)	交渉学の可能性―新しい世界の関係構築と紛争の予防のために	松 岡 博
7月 3日(土)	21世紀における文化としての設計科学と生産科学	岩 田 一 明
7月31日(土)	研究成果の取りまとめ会合「文化財保全技術」	志 水 隆 一
8月 6日(金)～ 7日(土)	近代精神と古典解釈：伝統の崩壊と再創造	手 島 勲 矢
8月24日(火)～26日(木)	数量的アプローチによる日本経済の比較的研究	宮 本 又 郎
9月 3日(金)～ 4日(土)	宗教が文化と社会に及ぼす生命力についての研究―禅をケーススタディとして―	天 野 文 雄
9月 4日(土)	21世紀における文化としての設計科学と生産科学	岩 田 一 明
9月 6日(月)～10日(金)	第17回コンピューショナル・マテリアルズ・デザイン(CMD)ワークショップ(於：大阪大学)	赤 井 久 純
9月 8日(水)～ 9日(木)	研究成果の取りまとめ会合「生物進化の持続性と転移」	津 田 一 郎
9月 8日(水)～11日(土)	天地人-三才の世界:宇宙・地球と人間の関わり合いの新しいリテラシーの創造(サマースクール・日本測地学会共催)	尾 池 和 夫
9月10日(金)～11日(土)	ナノ物質量子相の科学	金 森 順次郎
9月18日(土)	絵画と文学に表象される、時間と空間の脳による認識	近 藤 寿 人
9月24日(金)～26日(日)	フェロー研究会「森里海連環と地球的課題」	田 中 克

開催予定日	公開イベント	講師
10月 9日(土)	高等研公開講演会「生活習慣病の面白科学」～元気に生きるための食事と運動～	森 谷 敏 夫

カレンダー



高等研就業カレンダー（8月～10月）

■ 休業日（祝祭日を含む）

8

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

9

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

10

9日：公開講演会

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						